



新年挨拶

岩手河川国道事務所長
清水 晃

平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、台風第10号の影響により岩手県沿岸部を中心に局地的に猛烈な雨を観測し、河川の氾濫により、多くの人命が失われ、道路損壊による集落が孤立するなど重大な被害が発生しました。この度の台風により被害に遭われた皆様や今なお避難されている皆様に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

台風が東北地方の太平洋側に上陸したのは統計開始以降初めてであり、今後、地球温暖化に伴う気候変動により、水害の激甚化が想定されるなか、国土の基盤整備の重要性を強く感じるとともに、命を守り、社会経済への影響を最小限にとどめることを目標としたソフト対策に重点をおいた減災対策の取り組みが急務であるところです。

岩手河川国道事務所が実施する河川事業では、平成14年、19年洪水対応としての中流部の緊急治水対策事業、北上川上流の根幹となる一関遊水地事業及び狭隘地区の治水対策事業などを進めており、一関遊水地事業では県内最大となる大林水門と長島水門の建設、支川磐井川の堤防拡幅、小堤の整備を実施してきているところです。

また「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、国、県、市町村が連携して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するため、『北上川上流洪水減災対策協議会』を設置し、水防災意識を高める取組みを実施していきます。

砂防事業では、岩手山及び秋田駒ヶ岳の噴火に伴う土砂災害を防止するため、今後の火山活動の推移に注意しつつ、砂防施設の整備を実施していきます。

道路事業では、復興道路・復興支援道路である「東北横断自動車道釜石秋田線」及び「宮古盛岡横断道路」の事業を進めております。広い県土の高速交通ネットワークを図るため、「東北横断自動車道釜石秋田線」では、遠野住田ICから遠野IC間約11kmの平成30年度、「宮古盛岡横断道路」では、都南川目道路約3.4kmの平成31年度、区界道路約8kmの平成32年度の開通目標へ向け事業を促進するとともに、平津戸松草道路約7kmにおいては、残る構造物の早期着手を図ります。

また、内陸の骨格道路である国道4号・46号については、都市の交通の円滑化や安全確保、物流・流通の効率化による生産性向上を目的に改築事業及び交通安全事業を進めます。

老朽化対策については、道路メンテナンス会議にて情報共有を図り、県・市町村と一体となってメンテナンスサイクルを持続的に進め、産学官協力のもと道路施設の長寿命化に取り組みます。

今後、生産年齢人口が減少する社会に対応するために「i-Construction」による建設産業の生産性向上についても、各種業界と協力しながら取組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

この1年が今まで以上に被災地の復興が進み、皆さまにとって素晴らしい年となることをお祈り申し上げます。